



今月のおすすめ絵本 ～11月号～

あそびの杜保育園



今月はイソップ物語のお話です。イソップ物語はどんなお話か知っていますか？外国の昔話…そんなとらえ方をしている大人がほとんどかな？？私も明確にはよくわかっていませんでした。が…やはり、新しいお話もよいけれど、歴史あるお話はとても大事に引き継がれてほしいところです。今月は、お父さん、お母さんが子どもの頃に一度は聞いたことがあるお話です。保育園でも日本の昔話同様に、大切に読み聞かせをしてきたと思っています。



昔から語り継がれている国内外の子ども向けのお話には「寓話」「童話」「おとぎ話」「昔話」と色々な言い方があるのはご存じでしょうか？せっかくなので、少しでもその違いをお話します。

今回ご紹介したいイソップ物語は「寓話(ぐうわ)」です。「**寓話**」とは、人間ではなく、動物などを擬人化して登場させ、教訓を含めた物語です。例えば、「うさぎとかめ」もイソップ物語なのですが、このお話には、自分の力を過信して思い上がって油断していると、物事・チャンスを逃してしまうよ…という教訓が込められています。子どもだけでなく大人もドキッとさせられるお話です。大人もドキッとするとお話が「寓話」です。

「**童話**」は子どものために作られたお話です。代表的なものが「グリム童話」です。ドイツのグリム兄弟が地域にまつわる民話を集めたものです。「ラプンツェル」「白雪姫」「赤ずきんちゃん」などがグリム童話です。

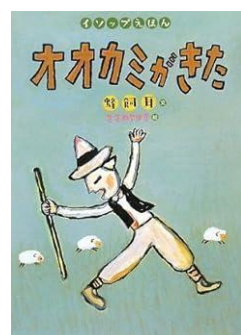
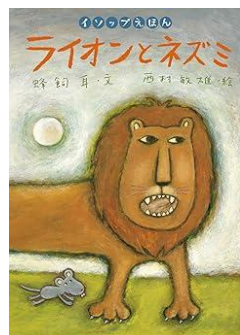
「**おとぎ話**」は子どもが楽しむための非現実的な物語です。が…なんと、もともとは大人たちが退屈しないために語り合う話のことを意味していたそうです。昔の日本、江戸時代や戦国時代には將軍たちを退屈させないように話をする御伽衆(おとぎしゅう)という職業があったとか。



「**昔話**」は「むかしむかし…」で始まる空想の物語。「むかしむかしあるところに」で始まりますが、「本当かどうかはわからないけれど」という気持ちが込められているそうです。面白いですね。たくさんのお話がありますが、「浦島太郎」「ももたろう」「かきじぞう」などです。



何気なく読まれてきたお話ですが、違いを楽しみながら手に取ってみましょう。どのお話も、小学生向きに出版されている本だけでなく、幼児向けに絵本化してあるものなどがあります。本によっては少し短くしてあったり、最近の「コンプライアンス的に？」お話の終わりが変えてあったりするものなどあります。私はあえて昔に出された本を探すようにしています。「3びきのこぶた」では熱い鍋に落ちたオオカミを釜茹でにして食べた…がもともとのお話のようです。今では「オオカミと子ブタたちは仲良く暮らしましたとさ」と変わっている絵本もありますね。「ちびくろさんぼ」の本が一時期なくなったりもしました。賛否両論ありますが、素直な気持ちで、昔からある素晴らしいお話はそのまま子どもたちに読み聞かせてあげたいです。



これらの本は岩崎書店から出版されているイソップえほんシリーズです。他の出版社からも、いろいろな絵のタッチで出されています。私は、内容はもちろんですが、あまりアニメタッチなイラストではないものを選ぶようにしています。絵本として親しんだお話を、「これ知ってる」と何年後に文章を読んで内容を楽しむ「読書」…そんな本とのかかわり方につながったらうれしいなあと思っています。最後に…「寓話」は「教訓」だとお話しましたが、お子さんへの読み聞かせの際には、くれぐれも「教え」を付け加えるのはやめましょうね(*^_^*)